

平成27年度近畿部会第131回例会を下記のとおり開催しますので、ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

近畿部会第131回例会

■と き 平成28年2月27日（土）午後1時30分～4時30分

■ところ 西宮市勤労会館 第8会議室

所在地：〒662-0912 兵庫県西宮市松原町2丁目37

電話：0792-34-1662

交通：



- ◎ JR西宮駅から南に徒歩7分
- ◎ 阪神西宮駅から東に徒歩10分

■テーマ 「被災資料の救済を考える ―被災自治体の立場から―」

■報告者【基調講演】 青木 睦 氏 (国文学研究資料館)

【事例報告1】 倉持 敏 氏 (茨城県常総市総務部総務課法制室長)

【事例報告2】 西向 宏介氏 (広島県立文書館)

【モニター】 林 貴史 氏 (茨城県常総市総務部総務課文書保全指導員)

■内 容 1995年の阪神淡路大震災、2011年東日本大震災と、日本はこの20年の間に、2度の大規模で広域な被災地を生じる災害に見舞われた。それだけではなく、台風・豪雨などによる局地的被害も絶えない。当然のことではあるが、被災地においては、人命救助・ライフラインの復旧が優先であり、歴史資料担当職員もその対応に追われ、歴史資料の救済への対応にあたることは難しい。

アーカイブに携わる部署・担当者がどのように対応すべきか、被災自治体の事例をもとに考える。

第 131 回例会 タイムスケジュール

13:30		開 会	
13:35	～	14:30	基調講演 (国文学研究資料館 青木 睦氏)
14:30	～	14:50	事例報告 1 (常総市 倉持 敏 氏)
14:50	～	15:10	事例報告 2 (広島県 西向宏介 氏)
15:10	～	15:25	休憩
15:25	～	16:30	パネルディスカッション

第 130 回例会報告

日 時：平成 28 年 1 月 16 日 (土) 13 時 30 分～
場 所：尼崎市総合文化センター 7 階 会議室
参加者：33 名

全史料協近畿部会第 130 回例会は、尼崎市立地域研究史料館（以下、県政史料室）との共催で、尼崎市立地域研究史料館の隣の会議室を利用して行われた。

まず、東京大学文書館准教授の森本祥子氏から「東京大学文書館における資料管理のとりくみについて：理論の理解と実践の試み」のタイトルでお話しをいただいた。国立大学法人東京大学の法人文書（いわゆる公文書）と、大学のOBや教員などから寄せられた寄贈・寄託による史料群がある。史料群の中身を考えたときに、目録の編成方法の中で工夫を実践されているというお話しであった。

国際的な目録記述の基準である ISAD(G) のフォンドレベルの考え方は、寄贈・寄託文書には合うが、法人文書の目録編成には合いにくいところがある。法人文書の場合、シリーズレベルを中心にしたオーストラリアシリーズシステムの考え方がしっくり来るとし、現在、東京大学文書館において目録データベースを作成する際に、シリーズの変遷や内容の記述に力を入れた目録編成を実践されているとのことである。

報告後、企業史料協議会理事で、渋沢栄一記念財団等で企業の史料管理に携わってこられた松崎祐子氏から、企業史料の目録編成や資料管理に関わる人づくりに関するコメントをいただいた後、講演者・コメンテーター・コーディネーターの 3 者によるディスカッションが行われ、会場からの質問を交え議論も深まっていった。

我々、歴史資料の保存・管理に日々向き合っている者にとって、目録記述の標準化やさまざまな工夫の問題は、利用者の視点などを考えたときに、古くからあるけれども常に意識をして新しい情報を取り入れて行かなければならない。コンピュータによる情報技術の進展とあわせて、今後ともディスカッションを重ねていかなければならない課題なのだという事を強く感じた。

(運営委員 金原 祐樹)

